

3 実践内容に係るレポート

北海道置戸高等学校 水谷 愛 教諭

1 取り組むきっかけ等

- ・「高等学校教育課程編成・実施の手引・福祉科」の執筆は、本校が道立高校唯一の福祉科設置校であるため、福祉科長に命課された際に前任者から引き継いだ。
- ・「北海道高校生介護技術コンテスト」導入の理由は、全国のレベルに合わせた北海道予選が必要であり、コンテストを導入することで、道内参加校との学校間交流が図れるのではないかと感じた。そこで諸先輩や他校の福祉科担当者と協議し、導入に漕ぎ着けた。
- ・「社会福祉・介護福祉検定」作問委員は全国福祉高等学校長会北海道理事の主任として研修部で2年間活動させていただき、その流れで作問委員として活動させていただいた。

2 取組を通じて、達成したこと、満足したこと、うれしかったこと

- ・「北海道高校生介護技術コンテスト」の導入にあたっては、全道の先生方に情報提供やアドバイスいただき実施まで漕ぎ着けることができた。新しい取組で課題も多くあるが、生徒達が日頃学んできたことを多くの人にアピールできる貴重な機会であり、また高校福祉科を広く知っていただける機会になっていることに満足している。

3 取組を進める上で、苦労したこと

- ・「北海道高校生介護技術コンテスト」導入時は、協力していただける大学や企業等を見つけるところから始まった。北海道は広域なため開催場所をどこにするか、打ち合わせや事前準備等においても移動に時間と費用がかかり、関係者同士の連絡調整もスムーズに進まないなど、一から新たなことを始める難しさを感じた。
- ・「社会福祉・介護福祉検定」作問委員として、問題作成や作成した問題の再検討など、日頃の業務に追われながら行わなければならない時間的余裕がない。しかし、検定としての価値を高めていくためには問題作成は非常に重要であるため、全国の経験豊かな先生方に引けを取らないように、自身のスキルアップが求められているところで苦労している。

4 取組を進める上で、日頃から心がけていること

- ・何事も協力や理解が得られなければやり遂げることができないと考えるため、信頼を得られるように日頃から努めている。

5 今後の取組について

- ・高等学校福祉科はまだ歴史が浅く、社会で広く認知されていない現状にあると感じる。そのため、広く福祉教育を知っていただけるように本校の教育活動を充実させ、発信していきたい。